

お客様各位

カタログ等資料中の旧社名の扱いについて

2010年4月1日を以ってNECエレクトロニクス株式会社及び株式会社ルネサステクノロジが合併し、両社の全ての事業が当社に承継されております。従いまして、本資料中には旧社名での表記が残っておりますが、当社の資料として有効ですので、ご理解の程宜しくお願ひ申し上げます。

ルネサスエレクトロニクス ホームページ (<http://www.renesas.com>)

2010年4月1日
ルネサスエレクトロニクス株式会社

【発行】ルネサスエレクトロニクス株式会社 (<http://www.renesas.com>)

【問い合わせ先】 <http://japan.renesas.com/inquiry>

ご注意書き

1. 本資料に記載されている内容は本資料発行時点のものであり、予告なく変更することがあります。当社製品のご購入およびご使用にあたりましては、事前に当社営業窓口で最新の情報をご確認いただきますとともに、当社ホームページなどを通じて公開される情報に常にご注意ください。
2. 本資料に記載された当社製品および技術情報の使用に関連し発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権の侵害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
3. 当社製品を改造、改変、複製等しないでください。
4. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器の設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因しお客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
5. 輸出に際しては、「外国為替及び外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続を行ってください。本資料に記載されている当社製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的その他軍事事業の目的で使用しないでください。また、当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器に使用することができません。
6. 本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、誤りがないことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。
7. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」、「高品質水準」および「特定水準」に分類しております。また、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使われることを意図しておりますので、当社製品の品質水準をご確認ください。お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途に当社製品を使用することができません。また、お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、意図されていない用途に当社製品を使用することができません。当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途または意図されていない用途に当社製品を使用したことによりお客様または第三者に生じた損害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。なお、当社製品のデータ・シート、データ・ブック等の資料で特に品質水準の表示がない場合は、標準水準製品であることを表します。
標準水準： コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット
高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、防災・防犯装置、各種安全装置、生命維持を目的として設計されていない医療機器（厚生労働省定義の管理医療機器に相当）
特定水準： 航空機器、航空宇宙機器、海底中継機器、原子力制御システム、生命維持のための医療機器（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの、治療行為（患部切り出し等）を行うもの、その他直接人命に影響を与えるもの）（厚生労働省定義の高度管理医療機器に相当）またはシステム等
8. 本資料に記載された当社製品のご使用につき、特に、最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他諸条件につきましては、当社保証範囲内でご使用ください。当社保証範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は耐放射線設計については行っておりません。当社製品の故障または誤動作が生じた場合も、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないようお客様の責任において冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、機器またはシステムとしての出荷保証をお願いいたします。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様が製造された最終の機器・システムとしての安全検証をお願いいたします。
10. 当社製品の環境適合性等、詳細につきましては製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
11. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを固くお断りいたします。
12. 本資料に関する詳細についてのお問い合わせその他お気付きの点等がございましたら当社営業窓口までご照会ください。

注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサスエレクトロニクス株式会社およびルネサスエレクトロニクス株式会社とその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいいます。

注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注 1 において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

M51348AVP

低電圧 VIF/SIF

RJJ03F0053-0100Z

Rev.1.0

2003.09.19

概要

M51348 は、ポケットテレビ用で低電圧、低消費電力の映像中間周波 (VIF) 部分、音声中間周波 (SIF) 部分と同期分離 (Sync Sep.) 部分を含んだ半導体集積回路です。

回路構成は、IF アンプ、ビデオ検波器 (音声同時検波)、IF AGC、RF AGC (フォワード)、AFT、SIF リミッタアンプ、FM 検波器、電子ボリューム、同期分離の機能を内蔵しています。

パッケージは、24 ピンミニフラットパッケージを採用しています。

M51348AFP は、M51348FP に対し、DG、DP を向上させたものですが、VIF 入力感度は悪くなっているものです。

特長

- 低電圧、低消費電力化を追求し、更にミニフラットパッケージの採用により、小型テレビ、その他チューナ部分に最適
最低動作電源電圧 3V
消費電流 16mA (4.5V 電源電圧時)
- 強電界入力時、AFT 未使用時 (ミュートスイッチ ON 時)、電子ボリューム最小時には、それぞれ回路電流が減少し電力消費を抑圧
- VIF/Sync Sep.系と SIF 系と別々の電源 GND 端子を設け相互干渉を軽減
- 24 ピン電圧を外付けで調整することにより、ビデオ検波出力振幅可変
- 2 段 AGC ノイズキャンセラにより外部からのノイズに対する AGC 安全性が優れている
- 同期分離は、エミッタ入力方式となっており Sync 側正極で出力

用途

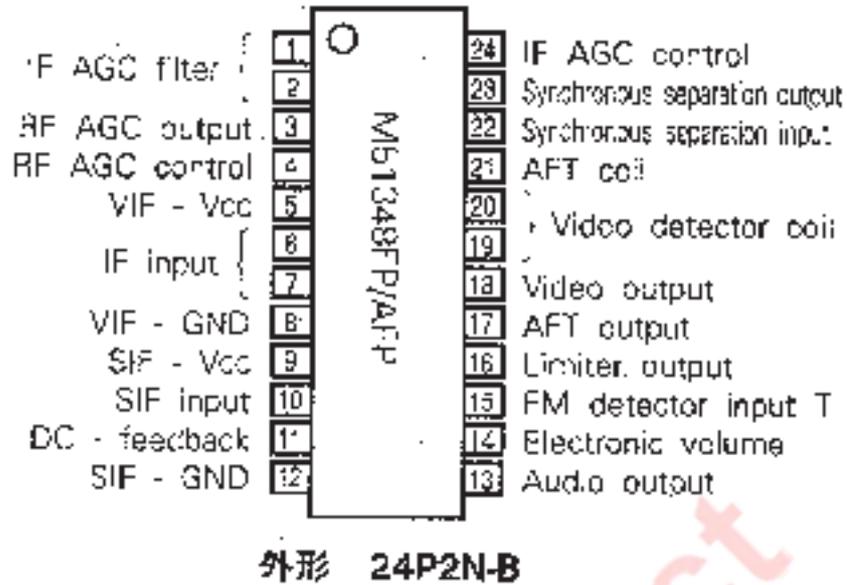
白黒、カラーポータブルテレビ

推奨動作条件

電源電圧範囲 3.0V ~ 6.0V

定格電源電圧 4.5V

ピン接続図 (上面図)



ブロック図及びピン接続図

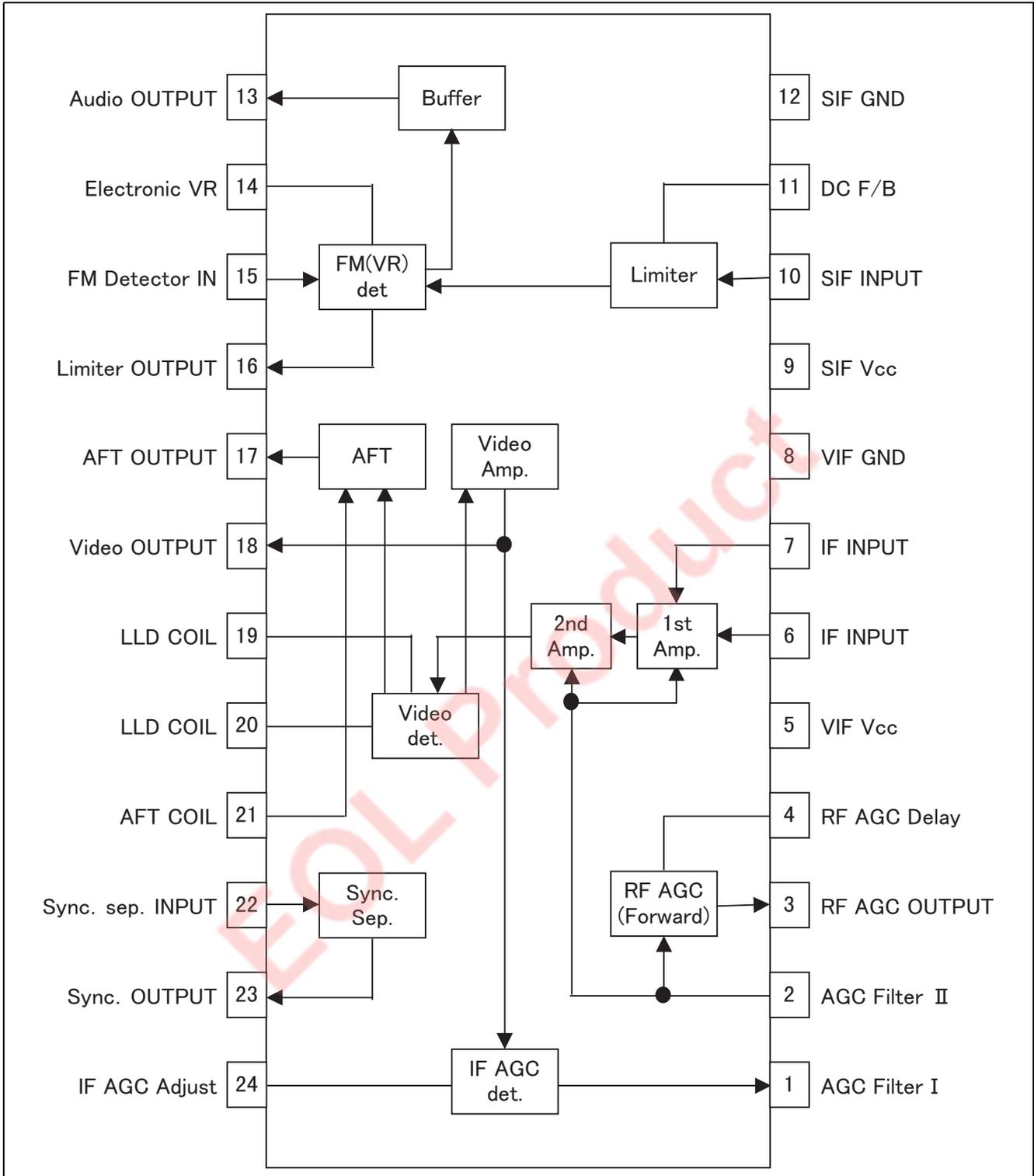


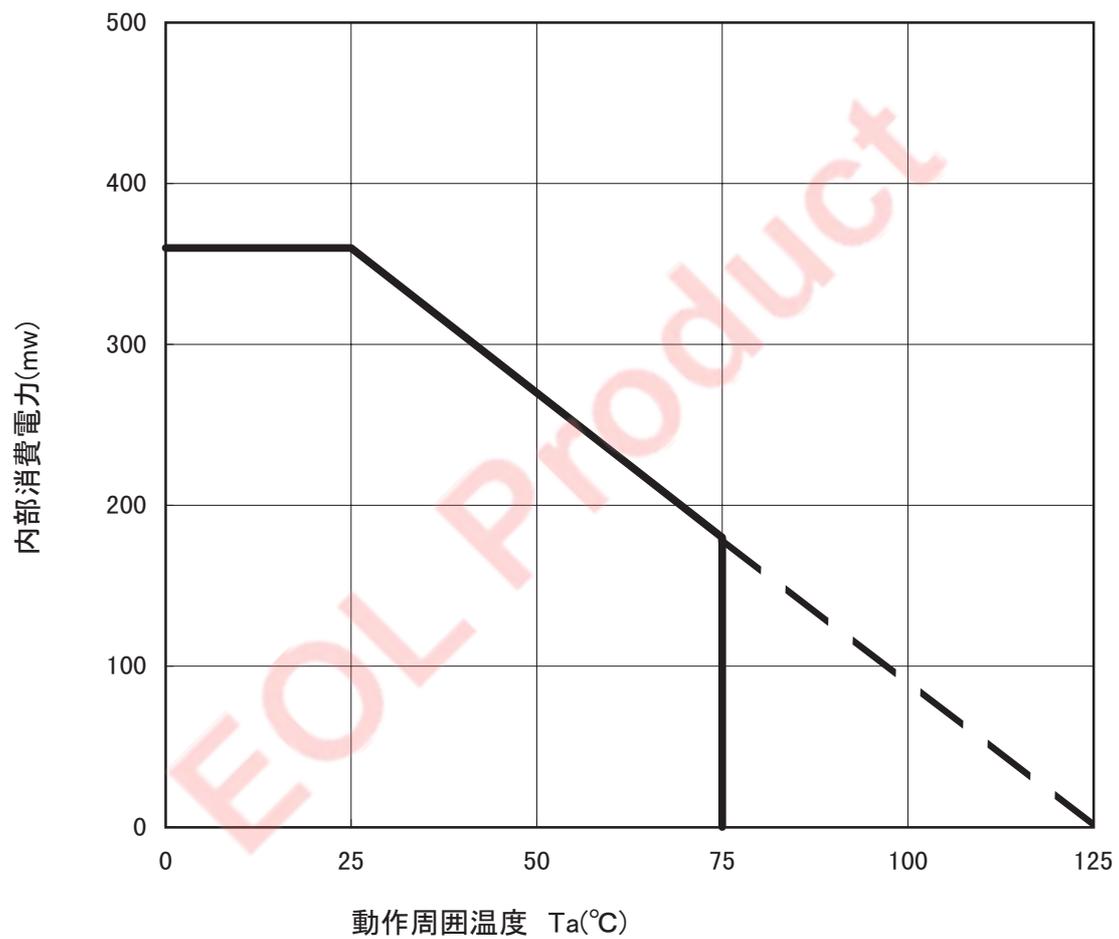
図 1

絶対最大定格

(特に指定のない場合は、 $T_a=25$)

項目	記号	定格値	単位	備考
電源電圧(1)	Vcc(5)	7.5	V	
電源電圧(2)	Vcc(9)	7.5	V	
消費電力	Pd	360	mW	
動作周囲温度	Topr	-20 ~ +75		
保存周囲温度	Tstg	-40 ~ +125		

熱低減曲線



電气的特性

AC 特性 (VIF)

(特に指定のない場合は、 $T_a=25$)

No	項目	記号	測定点	入力	条件	規格値			単位
						最小	標準	最大	
1	回路電流	I_{VIF}		—	に 4.5V 印加した時の 流入電流	10	15	20	mA
2	ビデオ検波出力	Vodet		SG1 90dB μ	出力振幅	0.7	0.9	1.1	Vp-p
3	入力感度	Vinmin		SG1 可変	出力振幅が Vodet よりも 3dB 小さくなった時の入力レベル	—	45	55	dB μ
4	最大許容入力	Vinmax		SG1 可変	出力振幅が Vodet よりも 3dB 大きくなった時の入力レベル	100	111	—	dB μ
5	ビデオ 周波数特性	BW		SG2	f1-f2=1MHz の時の出力振幅 の -3dB となった時の f1-f2 = BW とする	6	7	—	MHz
6	RF AGC 最大電圧	V_{3H}		SG4 90dB μ	に 4.5V 印加した時の 出力 DC 電圧	3.2	3.7	—	Vo-p
7	RF AGC 最小電圧	V_{3L}		SG4 90dB μ	に 2V 印加した時の 出力 DC 電圧	—	0	0.2	Vo-p
8	AFT 検波感度	μ		SG5 90dB μ	注 1 参照	30	50	—	mV /KHz
9	AFT ミュート ON 時 DC 電圧	V_{M17}		SG5 90dB μ	②に 0V を印加したときの 出力 DC 電圧	2	2.25	2.5	V
10	AFT センター電圧	V_{AC}		—	に 0V を印加したときの 出力 DC 電圧	0.5	1.4	2.5	V
11	同期分離 出力電圧	Vsync	②③	SG1 90dB μ	出力振幅	3.5	3.8	4.1	Vp-p
12	動作電源電圧	V_{VIF}		SG1 90dB μ	動作すること	3	—	6	V
13	増減電圧 ビデオ検波出力	VoHdet		SG1 90dB μ	に 6.0V、3.0V を印加したと きの出力振幅	0.95	1.25	1.55	Vp-p

【注】： は測定回路に準ずる

AC 特性(SIF 部)

(特に指定のない場合は、 $T_a=25$)

No	項目	記号	測定点	入力	条件	規格値			単位
						最小	標準	最大	
1	回路電流	I_{SIF}		—	に 4.5V 印加した時の 流入電流	2.2	3.2	4.2	mA
2	検波出力電圧	V_{OAF}		SG6 90dB μ	出力振幅	200	240	280	mVrms
3	入力 リミテイング感度	V_{imin}		SG6 可変	入力振幅をしぼって V_{OAF} より -3dB となる時の入力レベル	—	32	49	dB μ
4	AM 抑圧比	AMR		SG7 90dB μ	出力振幅を V_{AM} としたとき $AMR=20\log\frac{V_{OAF}(mVrms)}{V_{AM}(mVrms)}$	40	53	—	dB
5	帯域幅	BW(s)		SG8 90dB μ	注 2 参照	100	130	—	kHz
6	電子 ボリューム特性	VR1		SG6 90dB μ	を 4.0V 0.7V に変えた 時の出力振幅と V_{OAF} との比	3.0	3.9	4.8	dB
		VR2	—			-53	-45		
7	歪率	THD		SG9 90dB μ	歪率計で測定	—	0.4	1.0	%
8	動作電源電圧	V_{SIF}		SG6 90dB μ	動作すること	3	—	6	V
9	増減電圧 検波出力電圧	V_{OHAF}		SG6 90dB μ	に 6.0V、3.0V を印加した時 の出力振幅	380	430	480	mVrms
		V_{OLAF}	53			64	75		

【注】： は測定回路に準ずる

測定回路

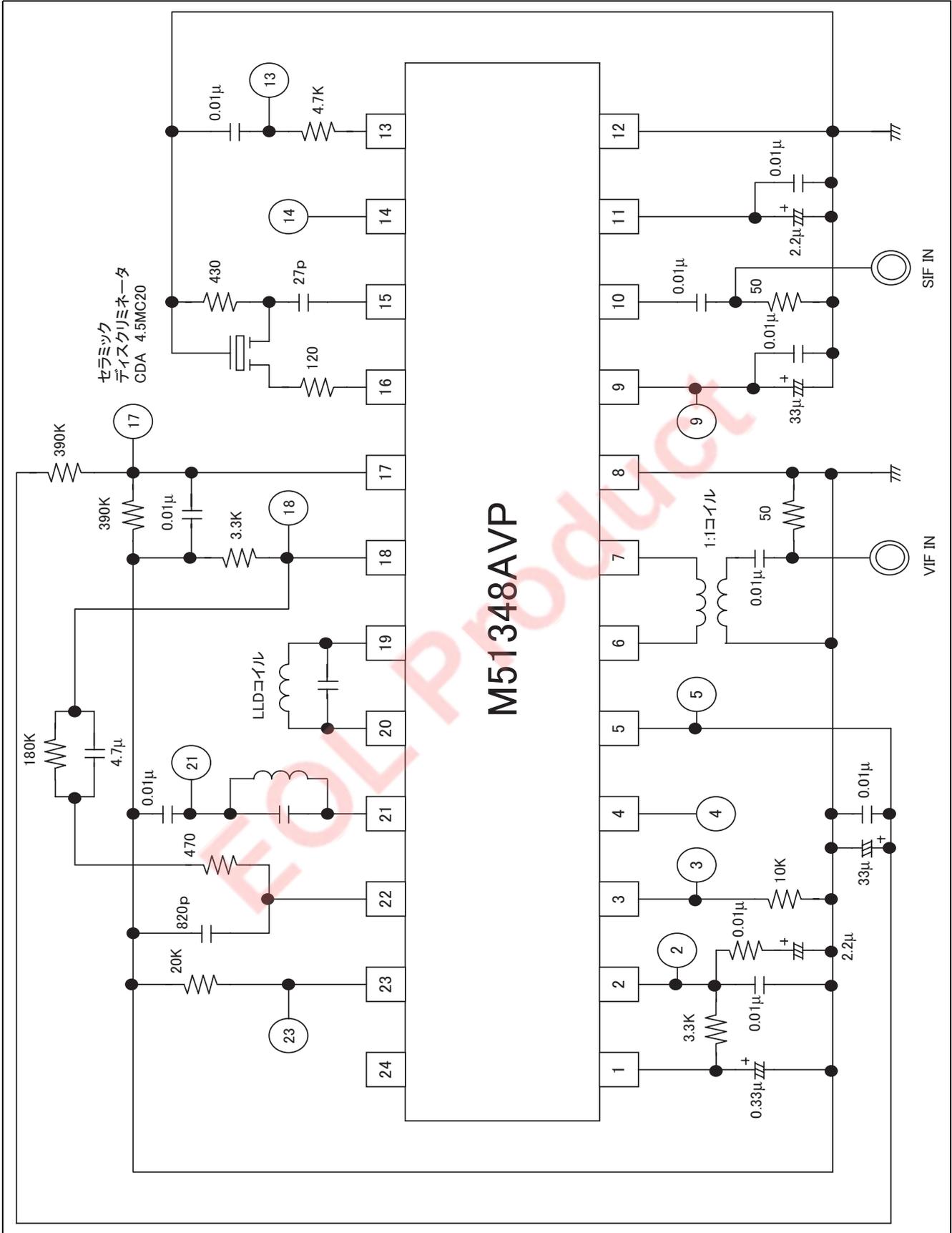
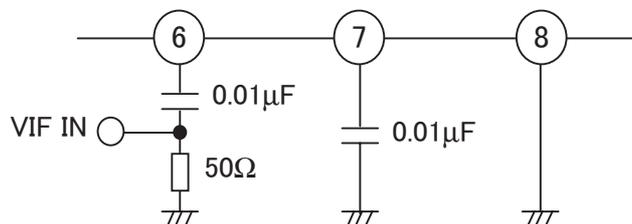


図 3

AC 特性測定に関する注意点

- 1) 条件欄にて指示なき場合は、電源電圧（ピン6, ピン7）は、4.5V とする。
- 2) VIF 入力振幅（ V_{in} ）は、下図の回路にしたときの VIF IN の振幅であり、この入力回路で SG1 90dBu を入力しての DC 電圧 V_2 を測定する。次に AC 測定用回路図の通りにして、同じく V_2 の DC 電圧をモニターしておき、入力振幅を変えて V_2 と同じ電圧になったところの振幅を 90dBu とする。

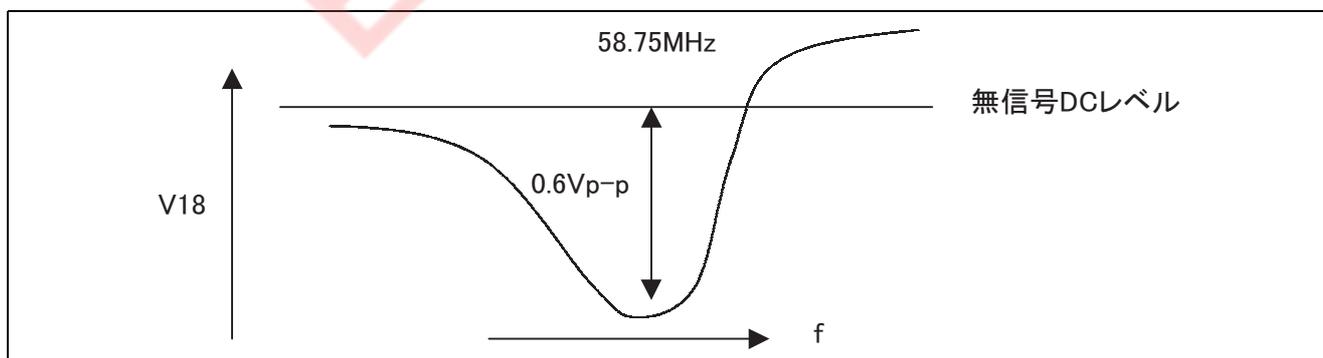


- 3) 入力信号は、以下に示す通りである。

SG1	$f_o=58.75\text{MHz}$	$f_m=20\text{KHz}$	77.8% AM
SG2	$f_1=58.75\text{MHz}$	$V_i=90\text{dB}\mu$	CW
	$f_2=53 \pm 5\text{MHz}$	$V_i=70\text{dB}\mu$	CW
SG3	$f_o=58.75\text{MHz}$	Linearity 10step signal (87.5% Video modulation)	
SG4	$f_o=58.75\text{MHz}$		CW
SG5	$f_o=58.75 \pm 5\text{MHz}$		CW(SWEEP)
SG6	$f_o=4.5\text{MHz}$	FM 25KHz dev	$f_m=400\text{Hz}$
SG7	$f_o=4.5\text{MHz}$	AM 30%	$f_m=400\text{Hz}$
SG8	$f_o=4.5\text{MHz} \pm 200\text{KHz}$	FM 7.5KHz dev	$f_m=400\text{Hz}$
SG9	$f_o=4.5\text{MHz}$	FM 7.5KHz dev	$f_m=400\text{Hz}$

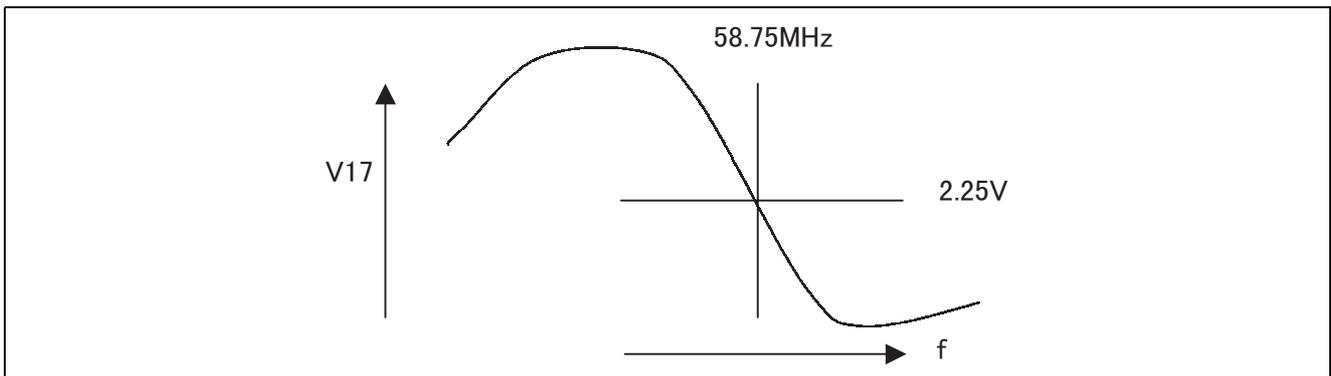
- 4) LLD コイルの調整

1. VIF IN に SG5 $V_i=90\text{dB}\mu$ を入力する。
2. AFT コイルは、ずらしておく。
3. に外部電圧を印加して、下図のようにタンクレスポンスを で確認する。
4. ピークが 58.75MHz になるように LLD コイルを回す。

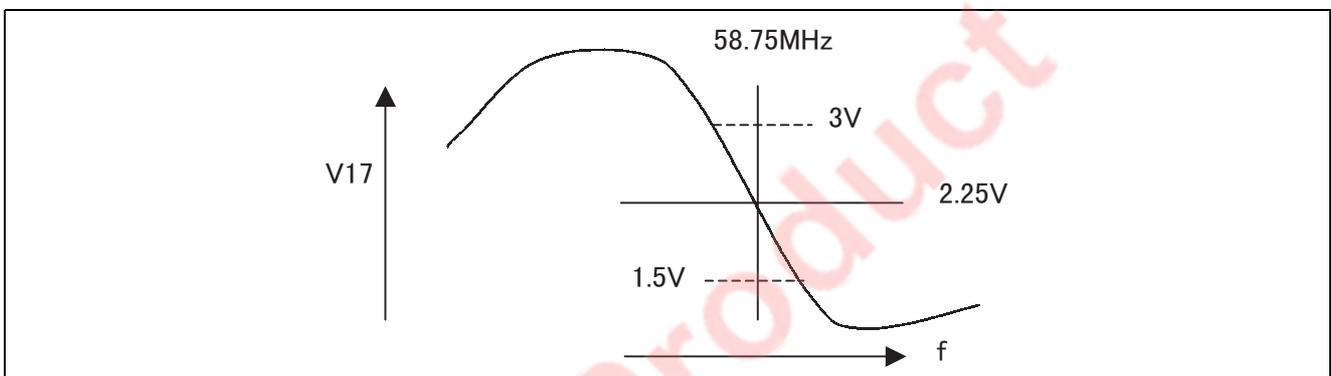


5) AFT コイルの調整

1. VIF IN に SG5 $V_i=90\text{dB}\mu$ を入力する。
2. の出力が下図のようになるよう、AFT コイルを回す



注1) AFT 検波感度 " μ "



A 点の周波数を f_A 、B 点の周波数を f_B としたとき、

$$\mu = \frac{1500\text{mV}}{f_B(\text{kHz}) - f_A(\text{kHz})}$$

注 2) 帯域幅 "BW(s)"

SIF IN に $f_0=4.5\text{MHz}$ 、 $f_m=400\text{Hz}$ 、 $f_{\text{dev}}=\pm 7.5\text{kHz}$ の信号を印加した時の出力振幅を $V_o(\text{DET})\text{FM}$ とする。

次に、 f_0 の周波数を下げていき、出力振幅が $V_o(\text{DET})\text{FM}$ の -3dB となる時の f_0 を f_{oL} とし、 f_0 を上げて行き出力振幅が $V_o(\text{DET})\text{FM}$ の -3dB となる時の f_0 を f_{oH} とする。

帯域幅は下の式で決まる。

$$\text{BW(s)} = f_{oH} - f_{oL}$$

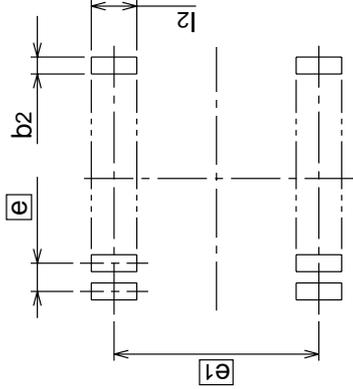
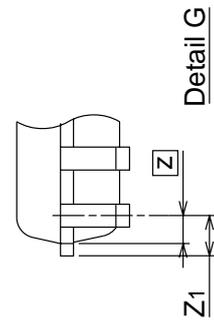
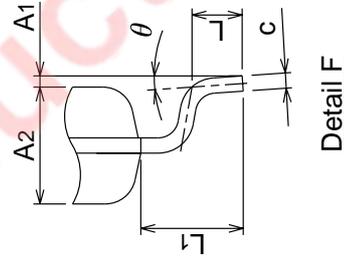
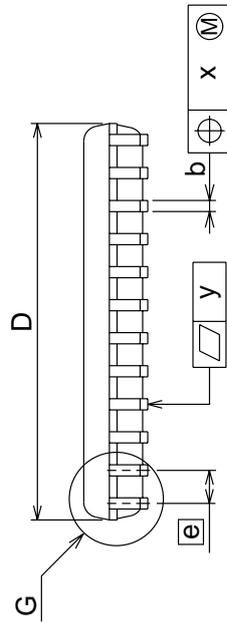
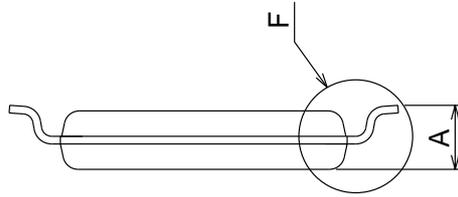
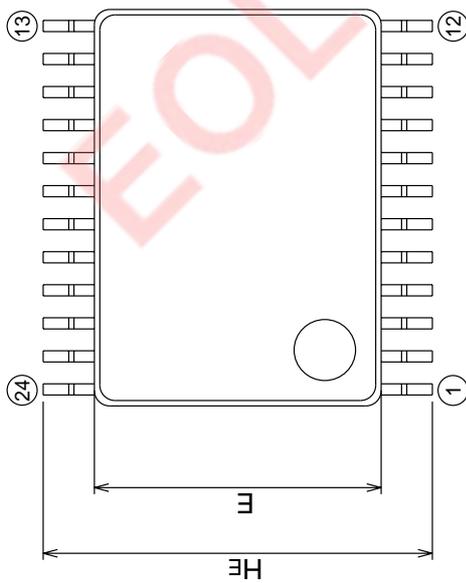
外形寸法図

Plastic 24pin 275mil SSOP

24P2E-A

(MMP)

EIAJ Package Code SSOP24-P-275-0.65	JEDEC Code -	Weight(g) 0.12	Lead Material Alloy 42
--	-----------------	-------------------	---------------------------



Recommended Mount Pad

Symbol	Dimension in Millimeters		
	Min	Nom	Max
A	-	-	1.45
A1	0	0.1	0.2
A2	-	1.15	-
b	0.17	0.22	0.32
c	0.13	0.15	0.2
D	7.7	7.8	7.9
E	5.5	5.6	5.7
e	-	0.65	-
HE	7.4	7.6	7.8
L	0.3	0.5	0.7
L1	-	1.0	-
Z	-	0.325	-
Z1	-	-	0.475
x	-	-	0.13
y	-	-	0.1
theta	0°	-	10°
b2	-	0.35	-
e1	-	7.0	-
l2	1.0	-	-

安全設計に関するお願い

1. 弊社は品質、信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品は故障が発生したり、誤動作する場合があります。弊社の半導体製品の故障又は誤動作によって結果として、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないような安全性を考慮した冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計などの安全設計に十分ご留意ください。

本資料ご利用に際しての留意事項

1. 本資料は、お客様が用途に応じた適切なルネサス テクノロジ製品をご購入いただくための参考資料であり、本資料中に記載の技術情報についてルネサス テクノロジが所有する知的財産権その他の権利の実施、使用を許諾するものではありません。
2. 本資料に記載の製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズムその他応用回路例の使用に起因する損害、第三者所有の権利に対する侵害に関し、ルネサス テクノロジは責任を負いません。
3. 本資料に記載の製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズムその他全ての情報は本資料発行時点のものであり、ルネサス テクノロジは、予告なしに、本資料に記載した製品または仕様を変更することがあります。ルネサス テクノロジ半導体製品のご購入に当たりましては、事前にルネサス テクノロジ、ルネサス販売または特約店へ最新の情報をご確認頂きますとともに、ルネサス テクノロジホームページ(<http://www.renesas.com>)などを通じて公開される情報に常にご注意ください。
4. 本資料に記載した情報は、正確を期すため、慎重に制作したものです。万一本資料の記述誤りに起因する損害がお客様に生じた場合には、ルネサス テクノロジはその責任を負いません。
5. 本資料に記載の製品データ、図、表に示す技術的な内容、プログラム及びアルゴリズムを流用する場合は、技術内容、プログラム、アルゴリズム単位で評価するだけでなく、システム全体で十分に評価し、お客様の責任において適用可否を判断してください。ルネサス テクノロジは、適用可否に対する責任を負いません。
6. 本資料に記載された製品は、人命にかかわるような状況の下で使用される機器あるいはシステムに用いられることを目的として設計、製造されたものではありません。本資料に記載の製品を運輸、移動体用、医療用、航空宇宙用、原子力制御用、海中継用機器あるいはシステムなど、特殊用途へのご利用をご検討の際には、ルネサス テクノロジ、ルネサス販売または特約店へご相談ください。
7. 本資料の転載、複製については、文書によるルネサス テクノロジの事前の承諾が必要です。
8. 本資料に関し詳細についてのお問い合わせ、その他お気付きの点がございましたらルネサス テクノロジ、ルネサス販売または特約店までご照会ください。



営業お問合せ窓口
株式会社ルネサス販売

<http://www.renesas.com>

本	社	〒100-0004	千代田区大手町2-6-2 (日本ビル)	(03) 5201-5350
京	支	〒212-0058	川崎市幸区鹿島田890-12 (新川崎三井ビル)	(044) 549-1662
西	支	〒190-0023	立川市柴崎町2-2-23 (第二高島ビル2F)	(042) 524-8701
札	支	〒060-0002	札幌市中央区北二条西4-1 (札幌三井ビル5F)	(011) 210-8717
東	支	〒980-0013	仙台市青葉区花京院1-1-20 (花京院スクエア13F)	(022) 221-1351
い	支	〒970-8026	いわき市平小太郎町4-9 (損保ジャパンいわき第二ビル3F)	(0246) 22-3222
茨	支	〒312-0034	ひたちなか市堀口832-2 (日立システムプラザ勝田1F)	(029) 271-9411
新	支	〒950-0087	新潟市東大通1-4-2 (新潟三井物産ビル3F)	(025) 241-4361
松	支	〒390-0815	松本市深志1-2-11 (昭和ビル7F)	(0263) 33-6622
中	支	〒460-0008	名古屋市中区栄3-13-20 (栄センタービル4F)	(052) 261-3000
浜	支	〒430-7710	浜松市板屋町111-2 (浜松アクタワー10F)	(053) 451-2131
西	支	〒541-0044	大阪市中央区伏見町4-1-1 (大阪明治生命館ランドアクシスタワー10F)	(06) 6233-9500
北	支	〒920-0031	金沢市広岡3-1-1 (金沢パークビル8F)	(076) 233-5980
中	支	〒730-0036	広島市中区袋町5-25 (広島袋町ビルディング8F)	(082) 244-2570
松	支	〒790-0003	松山市三番町4-4-6 (GEエジソンビル松山2号館3F)	(089) 933-9595
鳥	支	〒680-0822	鳥取市今町2-251 (日本生命鳥取駅前ビル)	(0857) 21-1915
九	支	〒812-0011	福岡市博多区博多駅前2-17-1 (ヒロカネビル本館5F)	(092) 481-7695
鹿	支	〒890-0053	鹿児島市中央町12-2 (明治生命西鹿児島ビル2F)	(099) 284-1748

技術的なお問合せおよび資料のご請求は下記へどうぞ。

総合お問合せ窓口：カスタマサポートセンタ E-Mail: csc@renesas.com